

議員行政視察報告

平成31年2月12日(火)から13日(水)に、議員7名により、静岡県南伊豆町の「サテライトオフィス誘致事業」と松崎町の「交流拠点施設ふれあいーふや。」の行政視察をしましたので、その概要を報告します。
 参加議員 鈴木真徳・利根川茂 中野博・南雲まこと
 井上栄一・田代実・平野由里子

誘致戦略

誘致を推進するため民間人の「コンシエルジュ(世話人・馴染ませ役)」を設け、民間企業と行政を馴染ませる役割を果たしている。

お試し企業の受入れ

企業への誘致戦略は、視察行程表の作成・宿泊交通費の負担、南伊豆関係者との交流として地域の祭りイベントへの招待など地方創生交付金を財源として実施。

期待する効果

サテライトオフィスを「滞在型オフィス(古民家や空き家などリノベーションしたオフィスに常駐)」と「循環型オフィス(シェアオフィスなどを利用し都市と地方を行き来)」に分け、それぞれの効果を狙った。

誘致の目的

主眼は定住対策であり、南伊豆町への企業の進出、サテライトオフィス事業を町在住の女性の受託による収入増、町に住み続ける効果を得る。

(記 井上栄一)

松崎町交流拠点施設「ふれあいーふや。」

松崎町も空家活用と雇用創出をめざした事業を展開している。平成27年度、地方創生交付金を活用して元豆腐屋を改修し、コピー機やテレビモニター、Wifiなどを完備したコワーキングスペースを開設。運営は町直営で、実際の管理は地域おこし協力隊が担う。

当初考えていた企業誘致は容易ではなく、地域住民が使って活性化に供することをメインに考え直し、使用料は低めに設定した。現在登録団体は



職員より館内の説明を受ける

5つ。東京のIT企業が協賛会員となって、若手社員が松崎に移住し精力的に活動し、会社やNPOを立ち上げた。すると他にも移住者が現れ、観光人力車を復活した。訪問した日はちょうど町と連携している静岡大学がゼミに使っていた。

もう一つの古民家拠点、伊豆文邸も案内していた。この「ふや。」の登録団体でもある女性グループによるイベントが開催中だった。アートで町の史跡をアピールするセンスの良い企画で、会員は松崎町の魅力に惹かれて移住してきた女性ばかりらしい。

「稼ぐ施設」と「町民のための施設」

担当職員によれば、町の姿勢として「稼ぐ施設」と「町民のための施設」をどう考えるかが問題だという。費用対効果



松崎町役場前

の面で議会から批判があるとのこと、議会での議論も聞いてみたかった。また、古民家改修は質を求めると新築以上にお金がかかるが、四国の神山町では十分お金をかけてリノベーションして事業誘致に成功している、という事例を教えてください。目標をどこに定めるかをよく検討すべきである。

松田町で進めている県土木跡地利用や寄の古民家再生事業にとって示唆に富む視察となった。

(記 平野由里子)



静岡県

松崎町
南伊豆町